

中部大2回戦敗退

全日本女子学生剣道 中京大など初戦で涙

第35回全日本女子学生剣道優勝大会(全日本学生剣道連盟、毎日新聞社主催)が13日、春日井市鷹来町の市総合体育館で行われ、愛知、岐阜県の出場5校は岐阜の朝日大がベスト8入りを果たした。愛知県勢は中部大が2回戦に進んだのが最高で、中京大、愛知学院大、愛知教育大はいずれも初戦敗退した。

熱戦を繰り広げた全日本女子学生剣道優勝大会
|| 春日井市総合体育館
で、長谷部光子撮影



中部大は初戦の明星大戦、1-1で迎えた副将戦で和田恵里選手(4年)が後半メンを決めて逃げ切った。2回戦の福島大戦では次と総括した。

中京大の前田恵里主将(同)は「残り1分の粘りが足りなかった」と悔しそう。愛知学院大の中村有里主将(同)は「自分たちの戦いができなかった」、愛知教育大の大海綾奈主将(同)は「若手が頑張ってくれたのが収穫です」と振り返った。シードの朝日大は初戦(2回戦)で関東学院大に3-1、3回戦の平成国際大に3-1と快勝した。先鋒の大村美星選手(3年)の動きが良く、先制して有利に試合を進めた。大将の今村舞選手(4年)は安定した実力を発揮。3回戦・中堅で2本勝ちした勝部真菜選手(3年)は「信頼できる大将がいるので、楽しんで思いっきり戦えた」とコマを進めた。法政大との準々決勝は、試合開始直後に相手の逆ドウが決まり、苦しい展開に。この日初めて登場した鍋島奈海選手(4年)が2敗で迎えた中堅戦で「とにかく、一本取る」と攻め続け、終盤に意地のメンを決めた。続く副将、大将が引き分け、1-2で惜敗した。

開会式では佐藤成明全日本学生剣道連盟副会長が「理にかなない、強く、美しい剣道を」とあいさつした。大石雅康・毎日新聞中部本社代表室長は「剣道は

日本人の心に根ざす。と励ました。【花井武 練習の成果を見せて】
人、長谷部光子